

地域へのアプローチ

**方針案**：地域住民が高齢者を支える地域づくりについて主体的に検討する場を設けて、地域の諸団体との連携を深め、目指す地域像を共有する。「高齢者のこれからを考える交流会」等で出された意見の具現化に向けて、地域住民が生活支援コーディネーターやCSW、地域包括支援センター、福祉施設などとも連携・協力し、課題を整理しながら地域で必要とされる活動の創出を目指す。

【取り組むテーマ】

①地域ごとで高齢者を支える地域づくりを考える  
～高齢者のこれからを考える交流会～

- ・地域の課題や良い所（活動）を共有し、あったらいいなを思う活動を共有する。

②「集いの場」の拡充

- ・地域住民が身近に気軽に集う居場所「集いの場」の拡充を通じて、互いに顔の見える関係を築いていく。
- ・困っていることを相談できる。困りごとの声を集める。
- ・支え合う地域づくりの基盤づくり

③助け合い活動の検討、創出

- ・サービス作りの視点で進めるのではなく、「健康づくり」「生きがいづくり」の視点で検討を進める。
- ・地域住民に助け合い活動が必要と感じてもらい、地域住民ができることを検討する。

【協議会で出された主な意見など】

①・地域に窓口があれば、そこが中心となって動きやすい。例えば、地域包括は福祉委員と連携もできているし、困りごとの情報も集まってくる。

②・課題は、「場所」「担い手」「内容のマンネリ化」  
・今活動している方々に、活動に参加することで健康づくりや地域の活性化につながっていることなどを伝え、自分の活動に意味づけすることでモチベーション向上につながる。  
・高齢者生きがい活動センターでは、いろんな講座をしており、講師を紹介できる。

③・知らない人が家に入ることに抵抗がある。  
・支える活動ができれば、活動したいと思う人も増えるのではないか。  
・地区別に困りごとリストを作り、地区別に協力を募ることができないか。  
・困っていることを言えない方のニーズや地域のつながりを拒みがちな方のニーズなど困りごとの掘り起こしが必要だ。

【これからの具体的な取り組み（案）】

- ・ひきつづき地域での開催を働きかけ、「集いの場」の拡充や助け合い活動について検討する。
- ・地域での成功事例などをまとめたヒント集を参考にして検討をしていく。

- ・社会福祉施設等の地域貢献として、提供できる「場所」「内容」「講師派遣」などの情報を集約し、活用をしていく。CSW等が窓口となり、地域の活動にコーディネートしていく。

- ・地域での集いの場で繋がり の充実を図る。
- ・地域ごとで「生活支援」の取り組みについて、検討をし、できることから進めていく。進めていくプロセスとしての具体案を作成し、参考としてもらう →別添資料1参照
- ・ひきこもりがちな方のニーズを地域包括や社協がアプローチ、アウトリーチしていく取り組みを継続していく。

**方針案**：「今ある活動」や「吹田の強み」を活かしていく視点で、地域での支え合いの活動を検討していくとともに、オール吹田での支え合い活動として、新たな担い手の養成や今あるつながりを活かしたボランティアグループの創出などを検討する。多様な機会で、アクティブシニアに向けた地域活動、社会参加を推進するための働きかけをしていく。

**【取り組むテーマ】**

④「今ある活動」「吹田の強み」を活かし、高齢者を支える地域づくりを推進する

- ・地縁型、志縁型のさまざまな活動を活かす。
- ・「今ある」仕組みや取り組みを活用し、支え合い活動に多くの方に参加してもらう。

⑤「我が事」として、地域で高齢者を支えていく機運を高める取り組み

- ・多様な機会での地域活動や社会活動に参加を呼びかける

⑥地域活動の担い手を増やすための取り組み

- ・今活動している人の仲間を増やす
- ・無関心層への働きかけ
- ・新たな担い手が増えれば、現在の活動の継続や新たな活動の検討や活動の幅が増える

**【協議会で出された主な意見など】**

④・サービス作りではなく、「健康づくり」や「生きがいがづくり」をキーワードにする。  
・「今ある活動」をより PR をし、活用しやすくしていくことが必要だ。

⑤・お互いに支援をしたり、支援をされたりすることよっての相互実現を目指す。  
・働きかけが必要なところに、必要な周知をしていく。

⑥・転入者、退職者の地域デビュー作戦  
・地域包括支援センターは、自治会などのされている茶話会などを「伴走型支援」していく。

**【これからの具体的な取り組み（案）】**

- ・「生活支援サービス」などの社会資源リストを作成し、活用をしていく。
- ・ボランティアセンターと連携し、「生活支援」をサポートしていくボランティアグループの創出について検討をする。
- ・介護支援サポーターの仕組みを活用した取り組みについて検討する。
- ・「集いの場」交流会を開催し、それぞれの活動の充実を図る。

- ・3月12日支え合いの地域づくりフォーラムの実施をし、市民が自分たちの問題として考えていく主体性を高めていく。
- ・地域活動、社会参加を促す「シニア世代のための活動場所一覧」を作成し、高齢者の集まる機会などで配布、周知をしていく。

- ・吹田市内で他団体連携などの好事例の情報を収集しヒント集としてまとめ、他地区での参考にしてもらう。
- ・小地域を単位とした「地域福祉講座」を実施し、地域福祉に関心をもってもらい、活動の担い手を増やしていくことを目指す。
- ・担い手の確保について、地域で取り組めること、全市で取り組めることを検討する。

全市を対象にしたアプローチ

地域・全市共通項目